

## 第 23 回 ちゅうでん教育振興助成（2023 年度）

### 小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	札幌市立定山溪小学校
コ ー ス	学校支援コース
活動・研究のテーマ	定山溪の魅力発見！～地域の特色を生かした学習～

#### 〈活動・研究の意義および活動報告〉

##### 1. 本稿の特色及び活動の経緯・拝啓

本校は札幌市で唯一の複式学級をもつ小規模校である。2 年後の義務教育学校開校へ向けて、中学校・地域・社会とつながる、地域の特色を生かした教育課程の編成を進めている。本校では、小規模校の特性を生かし、児童全員が一体となって様々な活動に取り組んでいる。しかしながら、立地上の特性から他校の児童・地域との交流や、大きな集団での活動経験が少ないため、自分たちの地域の特色や特性への理解、様々な人へ自分の意見や考えを伝える力に課題がある。そこで、総合的な学習の時間を中心にこれまで活動してきた地域の特色やよさを調べる活動を充実させたり、姉妹校として交流のある、同様の課題をもつ神戸市立有馬小学校とオンライン学習をしたりする活動を通して、自分たちの地域の特色やよさを理解し、それを自分の言葉で発信できるような力を付けていくことを目的として実践に取り組んでいきたい。

##### 2. 研究の目的・ねらい

###### (1) 児童の成長

自分たちの住む地域の特色を知り、そのよさを実感することで、地域に愛着と誇りをもち、自信をもってそのよさを発信することができるようになると期待される。また、発信には伝えたい情報を集める力、集めた情報を整理し、まとめる力、整理した情報を相手に分かりやすく伝える力が求められる。中学生や地域の人、有馬小の児童など様々な場面で発表する経験を通して、相手や環境に合わせた自分の意見を伝える力、発表を工夫する力を身に付けることができると思う。

###### (2) コミュニティスクールとして

札幌市初の施設一体型義務教育学校・コミュニティスクールを目指して、特色ある教育課程を編成し、実践していくことで札幌らしいコミュニティスクールの在り方を提案したい。

###### (3) 教師の授業力向上

一般の教師は地方公務員であるため、勤務している自治体での研修を受けることがほとんどで、他地域の教師と授業検討をする機会は少ない。姉妹校の有馬小学校は学校規模などで類似性が高く、学校課題などを共通の認識のもと検討できると考えた。また、小規模校での指導技術について多様な視点で検討することができるため、教師自身の指導力の向上につながると考えられる。

##### 3. 活動の報告

###### A. 地域の特色を知る活動

総合的な学習の時間「温泉博士になろう！」の単元では、自分たちの住む地域の特徴である温泉について調べた。一人一台端末を利用して温泉の定義や日本の温泉の種類などを調べ、温泉がどのようなものかを確認した後、児童がそれぞれの発達段階や興味・関心をもとに児童自身でテーマを決めた。温泉で働く家族から温泉での仕事の様子や温泉の使い方を聞いたり、実際にホテルに依頼して入浴体験及び温泉設備の見学をしたりさせてもらうことができた。実際に設備を見学し、施設を利用することでホテルの仕事や温泉をどのように観光資源として利用しているのかを実感をもって知ることができた。9月の参観日には「D 地域をつなぐ活動」の一環として、姉妹校有馬小

**表 1 総合的な学習の時間のテーマ一覧**

児童	学年	テーマ
A	3 年生	定山溪温泉について
B	3 年生	小金湯温泉について
C	3 年生	豊平峡温泉について
D	4 年生	豊平峡温泉とネパールの温泉
E	4 年生	定山溪温泉と朝里川温泉
F	4 年生	定山溪温泉と有馬温泉
G	5 年生	日本にある温泉の数と種類
H	5 年生	温泉が湧出するメカニズム
I	6 年生	日本三古湯の伝承と歴史

学校の児童や定山溪・有馬それぞれの保護者へ調べた成果を発表することができた。学習後の振り返りでは、“定山溪のホテルはそれぞれ泉質が違っていると分かった。”“予想と結果が全然違った。なぜなら温泉のでき方なんて考えたことがなかったから。これから温泉についてもっと調べたい”など、温泉地に住んでいることによって当たり前であった温泉について新たな発見があり、詳しくなったという思いをもつ児童が多くなった。また、児童9人中8人が「定山溪が好きでずっと住んでいたい。」と回答するなど、地域の特色を調べる活動を通じて、地域のよさを理解し、それが愛着心を高めることにつながることができたのではないかと考えられる。

## B. 地域とつながる活動

農業支援リーダーの指導のもと、教材園で野菜を育てて、地域住民へ販売する活動に取り組み、昨年以上の売り上げを得ることができた。まちづくりセンターや郵便局、観光協会に依頼してポスターを貼ってもらうなど地域の協力を得ながら活動を進めることができた。学習後の振り返りでは、野菜の販売よりも野菜を育てて収穫するまでのことについての記述が多く、“野菜にも命があることを初めて知りました。”“野菜の育て方、食べ物の大切さ”など、食育や道徳的な学習として学びを実感している児童が多かった。地域とのつながりという意味では学習の効果は大きいとは言えない結果となったが、食育や道徳的な学びを深めることができたことが成果となった。

## C. 地域の文化を受け継ぐ活動

定山溪はかっぱがイメージキャラクターとして根付いてきている。このかっぱにちなんだ「かっぱ音頭」という曲があり、以前は地域のお祭りで踊られていたが、2005年を最後に途絶えている。しかし、楽曲自体は約40年前に発足した鼓笛隊を前身とした本校マーチングバンド活動の一環として小学校で演奏され続けており、令和の時代まで受け継がれてきた。2020年からの新型コロナウイルスによる感染症対策の影響下でも、観客を制限するなどして学校行事の場で活動自体は継続することができた。制限緩和に伴い、地域の伝統を伝えるためにも地域住民への発表が必要不可欠であると考え、かっぱ音頭の発表の場を「連合町内会合同運動会」「学習発表会」「神社祭」に設定し、本助成金によって楽器を追加購入することで練習を充実させ、発表にのぞむことができた。特に神社祭は地域行事として、地域住民だけでなく、観光客へのアピールの場としても機能するなど、かっぱ音頭を通じて地域の文化を伝え、それを発表することができたことが大きな成果であった。また、発表の場のうちのひとつ、運動会をコロナ以前の連合町内会との合同開催に戻し、3月から町内会の担当者と打ち合わせを重ねて開催することができたことは、令和6年度からのコミュニティスクール導入及び令和7年度の義務教育学校開校後の運営に生かすことのできる経験を積み上げることができた。

## D. 地域をつなぐ活動

本校は観光協会の仲介のもと1970年代に神戸市立有馬小学校と姉妹校提携を結び、交流を続けている。毎年、教材園で採れたジャガイモ・サツマイモを交換していたが、一人一台端末配付に合わせてオンラインでも交流を進め、今年で3年目になる。各学年の授業では、特に国語科の「話す・聞く」を目標とする授業において、自校の学級だけでは少人数で深められなかった児童同士の交流を合同で学習することによって、話し合いに時間をかけて取り組むことができた。また、今年度は有馬小150周年でもあり、例年12月に実施していた「おいしいもの会」を拡大し、サツマイモのお礼に加えて、本校からも150周年のお祝いメッセージを送ることができた。教員同士の交流においては、9月に本校の校内研究授業での指導案検討及び授業参観、討議に有馬小の教諭にも参加してもらい、意見をもらうことができた。指導案検討の段階から参加してもらうことで、児童の実態や授業進行に見通しをもって参観してもらうことができ、その結果、討議でも活発に意見を交換することができた。また、1月には本助成金によって本校教諭が有馬小学校を訪問し、授業参観及び研究授業への意見を述べる機会をつくることもできた。多様な視点で授業を検討できるという点から大きな成果となり、今後も継続できるような方法を模索していきたい。

## 4. 成果と課題

小規模校の特性を生かし、地域とのつながりを大切にした活動に取り組むことができた。野菜販売での期待したものと違う点での学びや成果など、活動の主目的だけではなく副次的な効果も踏まえて、根拠を明示できる教育課程の編成を進めていきたい。



図1 温泉設備の見学



図2 野菜の地域への販売



図3 神社祭での発表の様子



図4 有馬小との全校交流